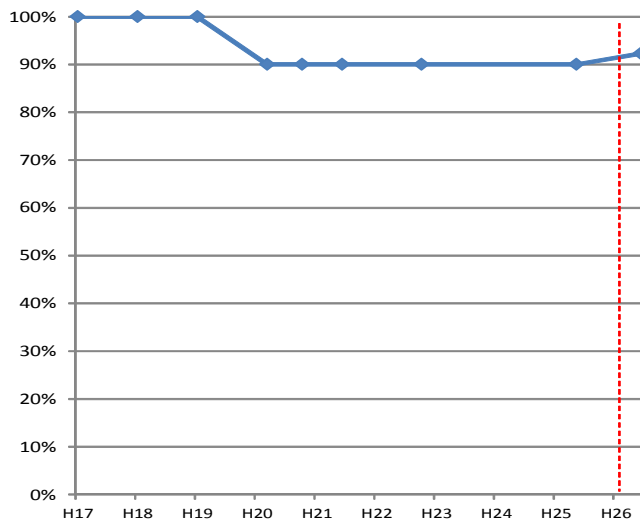


樹種名	ヒメシャラ	
科 目	ツバキ科	
学 名	<i>Stewartia monadelpha</i>	
分 布	神奈川県以西の山地に分布する。暖帯上部から温帯域に生育する。パイオニア的な性質を持ち、やや荒れた森林によく出現する。	
樹木特性	半陰樹であり、太平洋側の山地に生育し、落葉樹林を構成し、特にブナとの混生が多い。	
用 途	公園樹、床柱として利用。	
植栽本数 (植栽密度)	13本 (他樹種との混植)	
特 徴	<p>【樹形】 幹は垂直によく伸び、高さ 15m、胸高直径 90cm に達する落葉高木である。 樹皮は平滑で淡赤褐色。鱗片となって剥がれ落ちる。鱗片は堅く、表面がざらつくため、ヤスリの代わりになる。若木のうちは灰色の細かくざらついた樹皮であるが、成長するに従いこのような樹皮は剥がれ、次第に赤褐色のごく薄い樹皮に変わる。この樹皮は細かい鱗状に剥がれるが、全体としては明るい赤褐色のつるつるしたのに見え、森林内ではひととき目立つものである。 葉は互生で短い柄があり、長さ 5~8cm、葉身は楕円形から長楕円形、縁には低い鋸歯がある。葉は黄緑色で、全体に毛がある。ヤブツバキの葉が常緑で厚く、光沢があるのと比べ、落葉なので、同じツバキ科とは思えない。葉は、ナツツバキと似ている。花期は 7 月から 8 月。葉腋から 1 つずつ、小さな白い花を咲かせる。秋には紅葉になり、10 月から 11 月に濃褐色の実ができて種子ができる。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、病虫獣害は特に見られず、現存率、成長状況ともに良好な結果となっている。	
被害	鹿の好きな植物とされ、幹への剥皮被害が大きいとされているが、当試験地では現時点で被害は見られない。	

## ヒメシヤラ 現存率



## 【現存率】

植栽後の調査木の現存率は良好であり H25.6 時点で 90 %である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 92.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## 【根元・胸高直径】

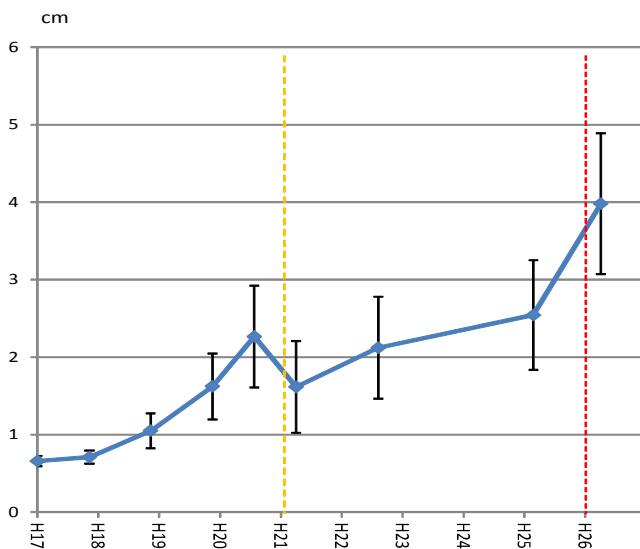
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 3.98 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

## ヒメシヤラ 根元・胸高直径



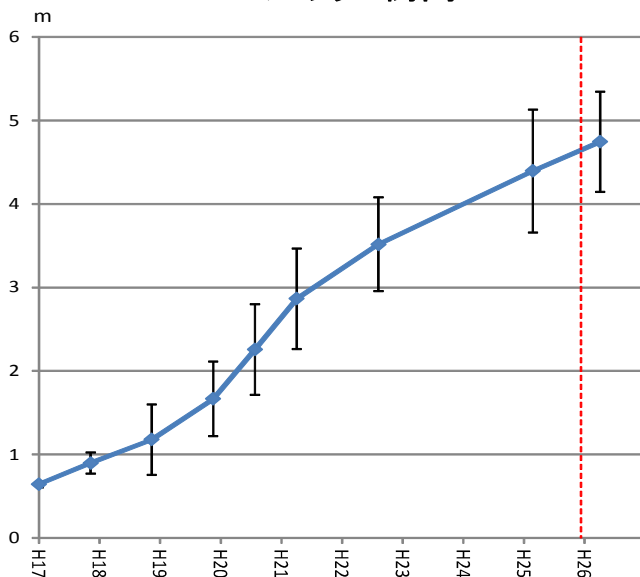
## 【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.75m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## ヒメシヤラ 樹高



## 《プチ情報》

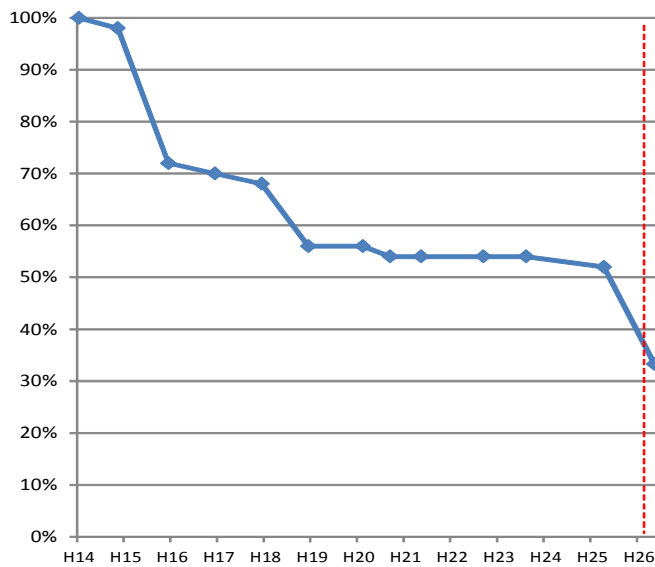
山で見られる木の中でも特に樹皮がすべすべしているためにサルスベリと呼ばれることがある。標準和名をサルスベリとする植物は観賞用の樹木であるが、全く異なった植物であり、本当のサルスベリが日本の森林内に姿を見せることはない。

また、同様の場所に見られる樹木ではリョウブも大きくなると樹皮がすべすべになり、サルスベリと呼ばれることがあるが、やはりヒメシヤラの方がすべすべ感が強い。



樹種名	ヒメユズリハ	
科目	ユズリハ科	
学名	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>	
分布	本州中南部、四国、九州、沖縄の他、外国では台湾、朝鮮半島に分布する。海岸付近に多く、トベラやウバメガシと共に海岸林の重要な構成樹種である。	
樹木特性	半陰樹であり、海岸部などの比較的標高が低いところに生育する。	
用途	庭木、公園樹、街路樹として利用。葉は正月飾りとして利用。	
植栽本数 (植栽密度)	150本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】 常緑小高木で樹高は8m程度となる。枝先に葉を束生する。葉は楕円形で革質、特に若いときにごくあらい鋸歯を見せることがある。葉柄は長く、葉の付け根で少し曲がる。雌雄異株で花期は5月頃薄黄色の葯だけを葉脇に多数付けて花序を成す。葯が破れると花粉が出るが、その時に葯は紫褐色となる。雌株は、房状に青緑色の球形の小さな実をぶらさげ、秋に黒熟し表面が粉をふいたように白くなる。果実にはアルカロイドが含まれ中毒症状を起こすので食べられない。同属のユズリハ(譲り葉)より全体的に小さい。また、葉柄がきれいな赤に色づかない。</p>	  
試験地での様子	普通苗を植栽し、植栽後2年目で3割以上が枯死し、その後枯死が増え続けた。原因は特定できなかった。	
被害	鹿の嫌いな植物であるとされ、食害等の被害は見られない。	

## ヒメユズリハ 現存率



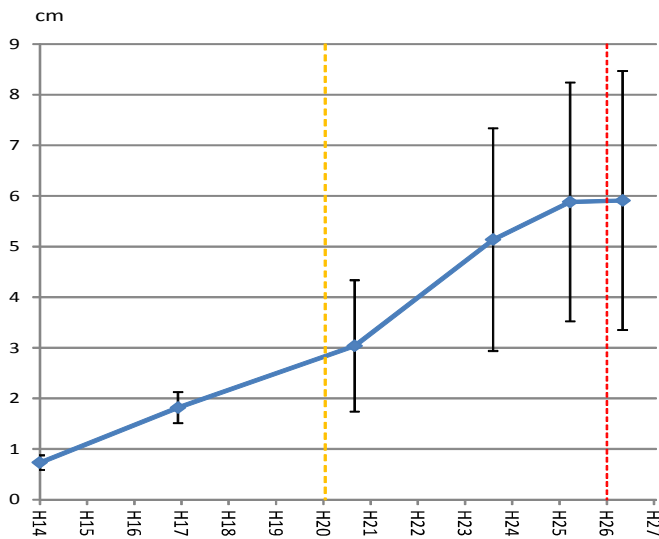
## 【現存率】

植栽後の2年目で3割以上が枯死したため平成16年度に補植(6本)し、その後枯死が増加傾向にあったが、平成20年度以降の枯死は見られない。なお、枯死の原因については特定できなかった。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は33.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

## ヒメユズリハ 根元・胸高直径



## 【根元・胸高直径】

現存木は順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、5.91 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

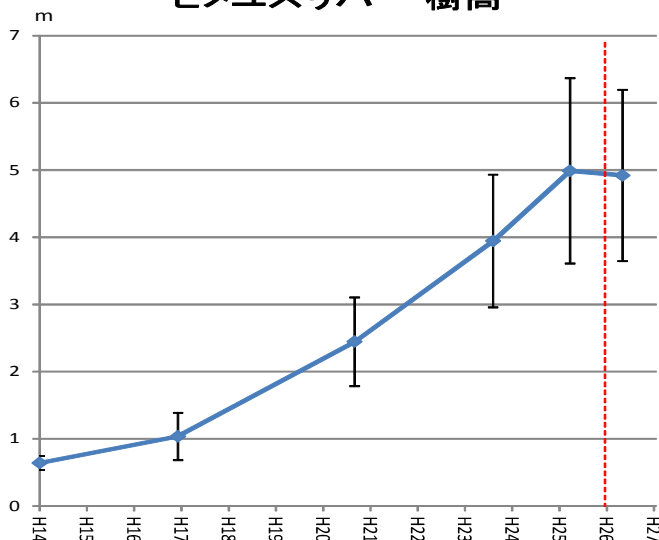
## 【樹高】

現存木は順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、4.92mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## ヒメユズリハ 樹高



## 《プチ情報》

春、新葉が出ると古葉が落葉する様子が、席を譲るように見えることから命名された。